



1 ページの個体の生息環境。

浦戸湾のシオマネキが
いかにすさまじい環境で
生きているかは、左の写
真で分かります。ゴミが
すごいのです。特に、ガ
ラスの破片の多さには驚
かされます。

右の個体は1 ページのカニとは別
の場所のカニです。ここも礫が多く、
彼らにとっては決して暮らしやすい
環境とは思えません。両方の場所に
共通しているのは、淡水の流入が少
なく、潮の干満の影響が直接的な0
m地帯であることです。かつては、
浦戸湾沿岸にシオマネキが生息するヨシ群落があったのです
が、消滅しつつあります。下の個体は、ヨシが繁茂した須崎
湾湾奥部産のシオマネキです。シオマネキは7年以上の寿命
があるとされていますが、環境により大きく異なるでしょう。



2004年7月高知市内で撮影。



2004年5月須崎湾産の個体。

須崎湾の個体は大型で、少な
くとも数年は生きているように
思えます。浦戸湾で確認された
個体はせいぜい2～3歳でしよ
う。彼らがもっと生き延びれる
よう環境を整備し、高知市のど
真ん中から自然の再生と、自然
の命との共生を考えませんか？

2004年9月29日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わ
は FAX 088-844-8310（町田研究室直通）をお願いします。